

「秩父教育第141号」の発刊に寄せて

秩父市教育委員会教育長 前 堅 進 一



今年度で141号を数えるこの「秩父教育」は、昭和31年に創刊され、教育に関する各幼稚園、各小・中学校としての取組や教職員個人としての取組のほか、教育情報なども掲載してきました。その後、教育研究所の調査・研究結果の報告や各幼稚園、各小・中学校の学校研究を紹介する「秩父市・教育研究」と統合する形で、現在の「秩父教育」として発刊しています。

秩父市教育委員会では、本年度も「未来の秩父を担う人材の育成と特色ある元気な学校づくりの推進」を目指し、「Ⅰ確かな学力と創造力の育成、Ⅱ豊かな人間力と健やかな体の育成、Ⅲ秩父ならではの特色ある教育活動の推進、Ⅳ質の高い学校教育の推進」を大きな柱とした『秩父市学校創造スーパープラン』に基づいた教育を推進して参りました。

「一年の計は穀を樹^うるに如^しくは莫^なし、十年の計は木を樹^うるに如^しくは莫^なし、終身の計は人を樹^うるに如^しくは莫^なし」（管子）という格言があります。「一年先の計画を立てるとしたら年内に収穫のある穀物を植えるのがよい。十年の計画を立てるといふなら木を植えるのがよい。一生の計画を立てるつもりなら人材を育成することだ。」というものであります。子どもは地域の宝であります。子どもたちの教育、つまり人づくりは非常に大切であります。各学校等において、教師が、学校教育の一番の使命である学力向上に向けて児童生徒としっかりと向き合い、このための時間や環境を整え、指導力の向上を図る取組を、さらに積極的に展開していただくことを期待しています。

結びに、貴重な原稿をお寄せいただきました多くの方々に感謝申し上げますとともに、秩父市の教育の益々の発展を祈念申し上げ、発刊にあたってのあいさつといたします。

目 次

巻頭言

秩父市教育委員会教育長 前 堅 進 一

I 幼稚園における園内研修の取組

- | | | | |
|---|-------------------------|-------|---|
| 1 | 幼児が進んで食べようとする気持ちをもたせるには | 吉田幼稚園 | 4 |
|---|-------------------------|-------|---|

II 小学校における校内研修の取組

- | | | | |
|----|---|---------|----|
| 1 | できる喜び・わかる喜びを味わう児童の育成
～説明する力を身に付ける指導の充実～ | 秩父第一小学校 | 6 |
| 2 | 子どもたちがせいっぱい運動に取り組む体育の授業づくり | 花の木小学校 | 8 |
| 3 | 言語活動を充実させ、
児童の思考力・表現力を伸ばす指導方法の工夫 | 西小学校 | 10 |
| 4 | 豊かな心を育み、確かな力を付ける
～思いやりの心と伝え合う力をもとめて～ | 南小学校 | 12 |
| 5 | 伝え合う力を身につけさせる指導の工夫
～国語科を中心に～ | 尾田蒔小学校 | 14 |
| 6 | 自分の考えをもち、伝え高め合う学習活動 | 原谷小学校 | 16 |
| 7 | 確かな学力（基礎・基本）を身につけ、生き生きと活動に取り組む児童
の育成を目指して ～読解力・表現力の向上をめざす実践を通して～ | 久那小学校 | 18 |
| 8 | 自ら進んで運動に取り組む、健やかな心と体を持つ児童の育成 | 高篠小学校 | 20 |
| 9 | 学力向上を目指した学習指導の工夫
～表現力（発表力）の育成を通して～ | 大田小学校 | 22 |
| 10 | 気づき、考え、伝える子の育成
～算数的活動の充実をめざして～ | 影森小学校 | 24 |
| 11 | 「学力」「規律」「体力」のバランスのとれた教育活動の推進
～言語活動の充実を図り、意欲的に国語科に取り組む児童の育成～ | 吉田小学校 | 26 |
| 12 | ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成
～発表力を高める指導の工夫～ | 大滝小学校 | 28 |
| 13 | 学力向上と豊かな心の育成
～言語活動の充実をとおして～ | 荒川東小学校 | 30 |
| 14 | 学力向上と豊かな心の育成
～言語活動の充実をめざして～ | 荒川西小学校 | 32 |

Ⅲ 中学校における校内研修の取組

1	思考力・表現力を身につけ、学習に意欲的に取り組む生徒の育成 ～言語活動の向上を目指した学習指導を基盤として～	秩父第一中学校	3 4
2	確かな学力と豊かな心の育成を目指した指導の工夫	秩父第二中学校	3 6
3	豊かな人間関係を築き、共によりよく生きる生徒の育成 ～道徳的実践力と人権感覚の育成を基にして～	尾田蒔中学校	3 8
4	確かな学力の育成 ～意欲を高めるための学習指導の工夫～	高篠中学校	4 0
5	個に応じたわかりやすい授業の創造 ～学習意欲を高めるための授業改善と学習環境の整備を通して～	大田中学校	4 2
6	一人ひとりのよさを伸ばす学級づくりをめざして ～未来社会を形成する人づくりの基盤となる社会性の育成～	影森中学校	4 4
7	基礎学力・学習意欲の向上を目指し、互いに高め合う生徒の育成	吉田中学校	4 6
8	自ら考え自分の夢を語れる生徒の育成 ～生きる力を育むキャリア教育の充実を通して～	大滝中学校	4 8
9	学力向上と豊かな心の育成 ～種をまき、水をやり、しっかり見届ける教育～	荒川中学校	5 0

Ⅳ 初任者としての一年を振り返って

秩父第一小学校	田嶋 美香	5 2
花の木小学校	大王 聖也	5 3
西小学校	坂本 優子	5 4
西小学校	持田 翔平	5 5
尾田蒔小学校	岩寄 誠	5 6
原谷小学校	飯野友里香	5 7
原谷小学校	茂木 智史	5 8
久那小学校	三橋 清美	5 9
高篠小学校	石川 千尋	6 0
影森小学校	池田 尚未	6 1
吉田小学校	清水 貴行	6 2
秩父第一中学校	越智 啓太	6 3
秩父第一中学校	相樂 繭子	6 4
秩父第二中学校	小島 直	6 5
秩父第二中学校	中田 和希	6 6
尾田蒔中学校	粕谷 和美	6 7
影森中学校	石井 匡樹	6 8

平成25年度 秩父市学校創造スーパープラン

編集後記

I 幼稚園における園内研修の取組

「志を立ててをもって万事の源となす」

吉田松陰

「幼児が進んで食べようとする気持ちをもたせるには」

秩父市立吉田幼稚園

1 はじめに

近年、食の多様化により食育の大切さが叫ばれている。本園の実態は、個人差や偏食、マナーなどの問題点がみられた。学年ごとに重点をあげ、子育ての目安「3つのめばえ」の視点「㊤生活」「㊦他者との関係」「㊧興味・関心」から手立てを考え、園内研修に取り組むこととした。

2 研究体制の確立と計画的な実施

- (1) 園内研修年間計画・食育年間計画の作成（野菜作り、健康な体作り、給食活動、試食会など）
- (2) 学年会や全体研修（学年で学期毎に実態を把握し、重点と「3つのめばえ」を掲げ、考察する）
- (3) 年度当初に親子食育教室の実施（映画・北部共同調理場栄養教諭による保護者向け講話）
- (4) 食育アンケート実施（食事メニューや食育チェック）→3歳児保護者へ栄養教諭による指導

3 学年ごとの取組

- (1) 3歳児の実態：野菜や牛乳が苦手な幼児が多く、食事中の姿勢・立ち歩き、食器・箸・スプーンの持ち方や噛まずに口内に食べ物をため咀嚼できない等の配慮が必要。

ア 重点：安心できる環境の中で、『食べる』ことを楽しむ。

イ 手立て ㊤食事のマナーを知らせる。

㊦教師や友達に親しみを持って生活させる。

㊧サツマイモなどを通し食の素材を身近に感じとらせる。

ウ 実践事例

3歳児も園の畑にサツマイモの苗をさした。イモ堀り（写真）は保育参加の母親たちの手も借り楽しめ、自分たちで芋を洗いアルミホイル等で包んだ。『焼き芋大会』当日は、燃し火に一人ずつ教師と共に薪を投げ入れることも経験し、「目が痛いよ～」と立ち上る煙が目にしみる様子や匂いを五感で感じられた。焼き芋は大好評だった。



エ 考察

苗さしから始まり、教師や友達と一緒に自分で体験しながら経験を重ねてきたことで、焼き芋は子ども達にとって楽しみとなり、食べることを楽しめた。

- (2) 4歳児の実態：給食当番も始まり給食を楽しみにしているが好き嫌いもあり全体的に少食。食事中の会話がが多く、姿勢や食器の持ち方などのマナーが気になる。

ア 重点：友達や教師と一緒にマナーを守り楽しく食事をする中、食べ物や自分の体に興味・関心を持ち、進んで食べる。

イ 手立て ㊤食事のマナーの大切さに気づき食べる楽しさを味あわせる。

㊦身近な人々との交流を通じ、進んで食事をさせる。

㊧食べ物の働きや体とのかかわりに興味・関心を持たせる。

ウ 実践事例

- ・給食の時間が楽しみになるよう『レストラン給食』として机の配置を変えるなど工夫し、個々に合わせて配膳の量を調節し、「食べ切れた」という満足感が味わえるようにしたことで自信につながり、食べる量も少しずつ増えてきた。
- ・3歳児との交流給食では、年上という意識が生まれ、普段より量を食べたり、残さず早く食べ終わったり、面倒を見てあげたりする姿が見られた。
- ・食べ物と体の関係を絵本や紙芝居、ゲーム（食べ物バスケット・写真）でわかりやすく伝えたり、食べ物の働きや給食の大切さを劇遊びで演じたりしたことで興味・関心が深まった。



エ 考察

交流給食で違うクラスに行くと緊張感もあり、自然と食事のマナーにも気をつけ、よく思われたいという意識も生まれ、食べることへの意欲につながった。運動会に向けての活動や、「食べ物バスケット」では食べ物とそれぞれの働きを覚え、食事中に幼児からも声が出るようになり、運動や遊びを通して体と食べ物の関係にも興味が出てきた。

- (3) 5歳児の実態：給食当番が配膳の際に「多め？少なめ？」と声を掛けているが量に偏りがあり、少食とたくさん食べる幼児に分かれている。食の大切さや有難さを感じていない。

ア 重点：食の大切さやありがたさ、マナーを身に付ける。

イ 手立て ㊸体を動かす活動を取り入れ、「遊ぶ」「空腹感」

「食べる」等、生活リズムを整えさせる。

㊹友達や教師とコミュニケーションをとり、一緒に食べる楽しさを味あわせる。

㊺食べ物と体の関係がわかり、興味や関心、必要性を感じ、食べる意欲をもたせる。



ウ 実践事例

- ・園の畑に10種類の野菜を作り、水やりや草取りをする中で野菜に関心を示し、実がなっているのを覗き込んでいた。収穫した野菜を園で食べると、調理してくれた教師に「作ってくれてありがとう」と感謝の言葉を伝えたり、家に持ち帰り「幼稚園の枝豆おいしかった」「カレーにナス入れて食べたよ」という声も聞かれた。
- ・栽培した野菜の苗の写真を捲る掲示物をクイズ形式にして廊下へ展示すると、友達と考え楽しんでいる様子が見られ、友達と共に野菜への興味関心を高めていった。
- ・食べ物の3色栄養素鍋（写真）を掲示し、給食献立表を見ながら食べ物カードを張り付けていた。何が体のどの部分を丈夫にしてくれるのか照らし合わせ、給食を食べながら会話をしている姿もみられた。

エ 考察

野菜ができるまでの世話を自分たちで体験してきたことで食べ物への感謝やありがたさを感じられたと思う。掲示物やゲームなど遊びの中で楽しみながら食への関心ももてた。

4 成果

- (1) 教師や友達に心を開き、「幼稚園は自分を出せる場」となったことで心身共に安定し、食事面でも一人一人の幼児が改善された。また、体を十分動かす活動を意識して保育に取り入れた事で、空腹感を感じ美味しく食事を摂れるようになった。
- (2) 野菜栽培の直接体験をし、五感を通して食べ物への興味・関心を高める事ができた。また、年中・年長児との交流からはマナーや食べ物を大切にする姿を学ぶ事が出来るようになった。
- (3) 交流給食では教師に言われるばかりではなく、小さい子に教える機会が持てたことで、マナーを守って食べることや好き嫌いしないで食べることの大切さに改めて気づかせることができた。
- (4) 幼児にわかりやすい教材を通して、食べ物への興味・関心が高まったことで食事に対する意欲にも高まりが見られた。
- (5) 食べ物を題材としてゲームや表現遊び等、日常にかかわれる環境の工夫をしたことで、食べ物への興味・関心や食べる意欲を引き出すことができた。
- (6) 積極的に野菜の栽培に取り組み、チャレンジカード（運動遊び）の活動により体を動かす機会も増え、食事の大切さやマナーも向上した。

5 今後の課題

- (1) 今後も生活経験の幅を広げながら、食への興味を深めていくこと。
- (2) 食べる量やマナーについては家庭での食事が大きく関係しているので、保護者にも食に対する意識を高めてもらうこと。

(担当 主幹教諭 申田一枝)

Ⅱ 小学校における校内研修の取組

「これを知る者はこれを好む者に如かず
これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」

孔子『論語』

「できる喜び・わかる喜びを味わう児童の育成」 － 説明する力を身に付ける指導の充実 －

秩父市立秩父第一小学校

1 はじめに

本校では、3年前より言語活動の研究を通して本主題に迫ってきた。1年目は招聘した指導者や文献から言語活動の基礎・基本を学んだ。2年目の昨年度は「説明する力を身に付ける指導の充実」をサブテーマに掲げ、研究に取り組んだ。具体的には、先進校の取組や県教委等の資料を参考に、児童が授業の中で「説明する力」を身に付けるための手立てを考え、授業実践を通して検証した。今年度は昨年度不十分だった授業研究を校内研修の柱に据え、児童の「説明する力」の向上に取り組んだ。また、今年度は学校図書館や読書環境の整備、読書指導の見直し・改善を図り「説明する力」の土台となる読解力の向上にも力を注いできた。

2 基本的な考え方と研究内容

(1) 本校が考える「説明する力」とは（説明する力の定義）

自分の考えを自分の言葉で、みんなに分かりやすく伝える力

(2) 研究の仮説

・発表力を高める指導を工夫したり、読書指導を充実させたりして、読解力の向上や語彙数の増加を図れば、児童に説明する力を身に付けさせることができる。

(3) 研究内容

ア 説明力を身に付けさせるための手立てを活用した授業改善

イ 児童の読書量と読書の質を向上させるための読書環境・読書指導の充実

3 「説明する力」を育てる授業改善への取組

(1) 授業改善の手立て

◎1時間の授業の流れがわかるわかる板書

例 理科の授業

- ・課題 ・予想 ・実験方法
- ・結果 ・わかったこと ・まとめ

◎児童の思考の視覚化

- ・数直線・補助線・ワークシート・メモ
- ・模 型・視聴覚機器・パソコン

◎少人数指導の充実

- ・指導（習熟度別・TT）の工夫、改善
- ・学力、能力に応じたきめ細かな個別指導

◎学習指導案の改善

- ・該当する学年、教科、単元で育てたい「説明する力」を明記する。
- ・1単位時間の中に「説明する力」を付けさせる場面を設定し、その手立てを明記する。
- ・板書計画を明記する。

◎発表に慣れさせるための工夫

- ①となり同士の話し合い、教え合い
- ↓
- ②グループ内での話し合い、発表
- ↓
- ③学級全体に対する発表

◎わかりやすく発表させるための工夫

- ・発表のパターン化（発表の約束）
- ・発表ボード、視聴覚機器の活用
- ・写真、資料等の活用

(2) 授業実践

ア 3学年社会科研究授業

平成25年10月3日（木）授業者 笹久保登美子 教諭

○小単元名 なぞがいっぱいスーパーマーケットの仕事

○本時の目標 スーパーマーケットの見学を通して、スー

パーマーケットで働く人々の販売の工夫や努力に気づくことができる。



○学習内容

- ・スーパーマーケットの見学で見つけたなぞやスーパーマーケットで働く人の工夫や努力を話し合い、わかったことを発表する。

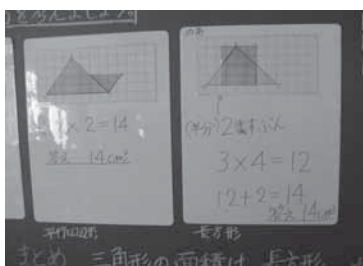
○「説明する力」を身に付けさせる手立て

- ・事実と考えを区別して発表できるように、「見学メモ」と「発見カード」を活用する。
- ・よりわかりやすい発表にするために、写真やチラシ等を活用する。
- ・少人数を対象にした発表からクラス全体に対する発表へ。

○研究協議会で出た主な意見や感想

- ・2人組の話し合いを充実させると、児童は自信を持って発表できるようになる。
- ・写真を使っでの発表は、発表に説得力を持たせることができた。

イ 5学年算数科授業研究 (TT)



平成25年11月29日(金)

授業者 宮本朝子 教諭(T1) 石森澄治 教諭(T2)

○単元名 面積の求め方を考えよう

○本時の目標 ・三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。

○学習内容 ・三角形の面積を求め方が分かっている図形に変形し、面積を求める。

○「説明する力」を身に付けさせる手立て

- ・学力、能力に応じたきめ細かな個別指導の実施(本時はTTによる)
- ・授業の流れが分かる板書、補助線、発表ボードの活用
- ・Aさんの考え方(発表ボードにかかせる)をBさんに説明させる。

○研究協議会で出た主な意見や感想

- ・発表ボードは、「説明する力」を向上させるために効果的に働いていた。
- ・説明の仕方がパターン化されていて、聞いている側にはわかりやすかった。
- ・Aさんが発表ボードにかいたものをAさんと違うやり方で考えたBさんに説明させるやり方は、児童の思考を深める上で効果的だった。

4 読書指導を充実させるための取組

(1) 年間読書目標の設定(学校図書館の本に限定)

- ・1、2年 年間40冊(必読書10冊+自由読書30冊)
- ・3、4年 年間30冊(必読書10冊+自由読書20冊)
- ・5、6年 年間20冊(必読書10冊+自由読書10冊)

※本の貸し出し日
図書委員 月、水、木、金
(昼休み)
担任、補助員 随時

(2) 読書活動を活性化させるための主な取組

ア 朝読書(8:25~8:35) 毎週 月、水、木曜日 第2・4 火曜日

イ 読書月間(10月1日~10月31日)

ウ 家庭学習週間 第1回10月 第2回2月

エ 学校図書館の充実と読書環境の整備



図書館コーナー

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・発表の仕方を身に付け、順序立てて発表できる児童が増えてきた。
- ・「説明する力」を育てるための教師の意識が高まり、授業の中で教科や学習内容に応じた適切な指導ができるようになってきた。
- ・学校図書館を利用する児童が増え、読書量も増加してきた。

(2) 課題

- ・「説明する力」と「聞く力」は関連が深い。次年度は「聞く力」の育成にも力を注ぎ、児童の言語活動能力を更に高めていくことが課題である。

(担当 教諭 石森澄治)

『子どもたちがせいいっぱい運動に取り組む体育の授業づくり』

秩父市立花の木小学校

1 研究主題設定の理由

学校教育目標「気づき 考え やりぬく子」の具現化を目指し、研究に取り組む。

◇児童の実態から

平成23年度の新体力テストは、全校の平均値92.7%と埼玉県標準値を上回る結果となった。しかし平成24年度は87.5%と5%ダウンした。また、運動好きな児童とそうでない児童の二極化傾向が見られる。

◇社会情勢から

児童を取り巻く社会が急激に変化する中、児童の学力低下への懸念、道徳心の低下、体力の低下などが学校教育の今日的な課題となっている。

この課題解決に向け、学ぶ喜びや充実感・達成感を一人でも多くの児童に味わわせ、「生きる力」を育成するために体育授業の質的向上が必要と考え、本研究主題を設定した。

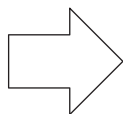
2 研究のねらい

「動く楽しさ」「伸びる楽しさ」「関わる楽しさ」「わかる楽しさ」を児童に味わわせる体育授業を目指し、授業研究を核に研究を進め体育授業の質の向上を図る。

3 具体的目標

(1) 目指す児童像

- ア すすんで学習する子
- イ 思いやりのある子
- ウ 心も体もたくましい子



「笑顔と元気、夢と思いやりにあふれた児童」

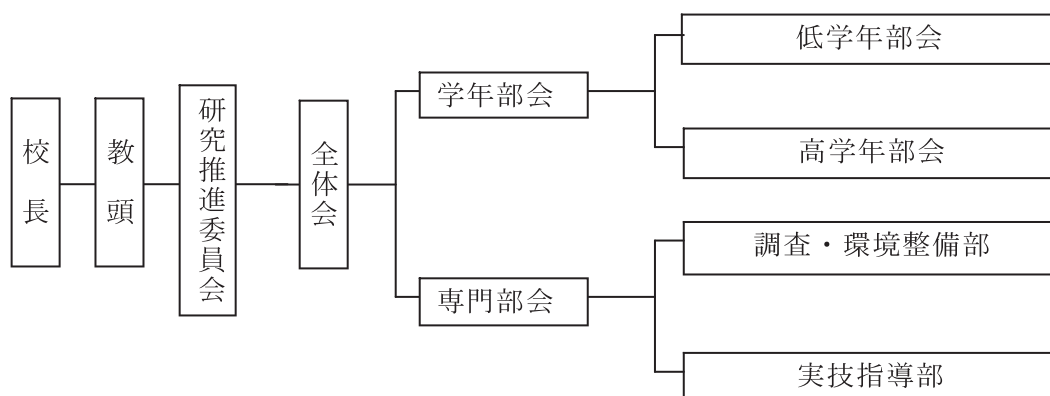
(2) 研究の仮説

- ア 集団行動の指導を徹底し学習規律を確立すれば、せいいっぱい運動に取り組む児童を育成できるであろう。
- イ 基礎・基本を身に付けさせ、運動の楽しさやできる喜びを味わわせるような指導を行えば、児童がせいいっぱい運動に取り組むであろう。

(3) 研究の具体的な手立て

- ア 全校統一の集団行動の約束を徹底する。(ハンドサイン、ホイッスルの合図)
- イ 気持ちよく「ハイ!」という返事ができるよう指導する。
- ウ 準備運動後に集団走を行う。(走の準備運動、心と体のスイッチオン)
- エ 本時のめあてを確認する。(何を学習するのか、学習内容の明確化)
- オ 本時の主運動につながる「慣れの運動」を行う。
- カ 声かけの仕方を準備する。(よい動きのポイント、できない子へのアドバイス)
- キ 称賛、励まし、拍手など児童のよさをたくさん認める。
- ク 本時のまとめを行う。(本時の学習のまとめ)

4 校内研修組織と専門部の取組



学年部会は、研究授業に向け指導案、学習カード、掲示物等の作成を行った。また、調査・環境整備部は新体力テストの集計、実技指導部は集団行動の仕方やボール運動の実技指導などを行った。

5 研究計画の概要

1 学 期	① 昨年度の研究プランの再検討 ② 研究テーマ、研究組織、研究全体構想などの検討・確認 ③ 体育授業のスタンダード確認（学習規律、集団行動、集団走） ④ 学年部会（授業者の決定、指導方法の研究や指導案検討など） ⑤ 専門部会ごとの研究推進（研究の方向性や研究計画の立案・実践） ⑥ 全体研修会（指導案検討など） ⑦ 要請訪問1回目 6月24日（火）6年2組 授業者 教諭 野口知大 単元名「みんなでつながろう!バトンリレー」 短距離走・リレー ⑧ 他校の体育授業研究会への参加 【夏季休業中】 ① 学年部会（指導案の作成・検討） ② 専門部会ごとの研究推進
2 学 期	① 全体研修会（指導案検討） ② 学年部会（指導方法の研究や指導案検討など） ③ 実技研修会（プレルボール） ④ 専門部会ごとの研究推進（研究の取組とまとめ） ⑤ 要請訪問2回目 11月29日（金）2年2組 授業者 教諭 大王聖也 単元名「わくわくランドにチャレンジ!」多様な動きをつくる運動遊び ⑥ 他校の体育授業研究会への参加
3 学 期	① 今年度の研究の成果と課題の明確化 ② 年間指導計画の見直し ③ 次年度の研究計画 など

6 研究授業の様子



6年2組「短距離走・リレー」



2年2組「多様な動きをつくる運動遊び」

7 研究の成果

- (1) 研究授業や実技研修会等を通じて、花小の集団行動の仕方を全職員で共有することができた。
- (2) ワークショップ型の研究協議を行い、授業の成果と課題を確認することができた。
- (3) 新たに取り入れたボールゲームの練習の仕方やゲームの仕方、ルール工夫等、実践的な研修を通じて確認することができた。

8 今後の課題

- (1) 指導案、学習カード等の整備と充実
- (2) 年間指導計画の工夫改善

(担当 教諭 櫻井隆夫)